



ほ場の融雪材散布について

本年は、1月上旬まで少雪、2月上旬には大雪と記録的な気象となりました。また普及センターの土壤凍結調査では、前年よりも凍結が深く入っていました(表1)。暖かい日が続いており融雪が進んでいますが、秋まき小麦のほ場での極端に早い融雪は凍上による根浮きを助長し生育不良になる場合がありますので、注意してください。

また、積雪によりパイプハウス肩部まで埋没している場合、融解の際に沈降圧によりパイプが変形・破損する恐れがあるため、付近の融雪・排雪を行いましょう。

表1 2月末現在の積雪深と凍結深

アメダスポイントの積雪深(2/28) 土壤凍結 普及センター調べ(2/28 現在)

	帯広	帯広泉	芽室	上札内		帯広別府	帯広富士	帯広広野	帯広戸蔭	更別勢雄A	更別勢雄B
積雪深	43	39	35	44	R7凍結深	-37	-39	-36	-37	-38	-31
平年値	48	67	57	70	R6凍結深	-29	-20	-14	-17	-19	-30
平年比	90%	58%	61%	63%	前年比	128%	195%	257%	218%	200%	103%

1 融雪材散布時期

平均気温が -3°C 以上になる頃で、最高気温が 0°C を超える日が続き、新たな降雪の予報がない時期に散布します。当管内では、3月5日~15日頃が散布作業を始める目安となります(表2)。

表2 日平均気温が -3°C 以上となる日 (注:アメダス地点の平年値(1991~2020)より)

帯広	帯広泉	芽室	上札内	更別
3月5日	3月11日	3月11日	3月15日	3月13日

2 融雪材の選定

土壤 pH が低いほ場は炭カル入り融雪材、土壤 pH6.0 以上のほ場はアルカリ分を含まない融雪材を選びましょう(表3)。

表3 主な資材の使用例

資材名(アルカリ分)	散布量の目安
防散融雪材(—)	20~40kg/10a
防散融雪炭カル(50%)	40~60kg/10a

3 融雪材散布上の注意

- 融雪促進と効果向上のため、濃淡をつけた散布を心がけましょう。
- 散布後に20cm以上の積雪があった場合は、再散布が必要です。
- 融雪水が停滞する場所は排水対策(溝切り)をしましょう。

春作業が始まります。安全確認で取り組みましょう!